

第1回ひょうご地域DX推進検討会議事録

日時等	2024年7月9日(火) 15:00~16:30 オンライン会議
参加者数	県内市町・県関係部局より計135名(講演者・事務局を除く。)
アジェンダ	
15:00~15:30	自治体DXの更なる推進に向けて (総務省 自治行政局 地域情報化企画室長 併任 地域DX推進室長 志賀 様)
15:30~15:45	兵庫県における地域DXの現状と課題 (兵庫県 DX推進監 赤澤)
15:45~16:00	総務省施策のご案内 (総務省 近畿総合通信局 情報通信部 情報通信振興課 課長補佐 阪本 様)
16:00~16:30	意見交換

自治体DXの更なる推進に向けて(総務省 地域DX推進室長 志賀 様)
<p>■地方自治体を取り巻く環境</p> <p>日本の人口が減少する局面では、今後地方自治体が行政サービスを提供するための経営資源が大きく制約されることを前提に、多様な行政ニーズに対応するために、職員の業務範囲を見直し、業務の自動化や省力化を図る新たな行政サービス提供体制を検討する必要がある。このためには、地域DXの推進ならびにデジタル人材確保が重要となる。</p>
<p>■地域DXの推進</p> <p>「国・地方デジタル共通基盤の整備・運用に関する基本方針」の概要を解説いただくことで、地域DXの推進の重要性を示された。地域DXのうち、業務効率化に資する「自治体DX」の推進を通じて、人的資源の最適配分を通じた政策立案能力の向上が重要である点をお示しいただいた。</p> <p>自治体DXに係る課題は多くの自治体で共通していることから、既存の取組をうまく活用することで、導入に係る地方自治体の負担を軽減することが重要となる。一例として、自治体DXの重要項目であるフロントヤード改革については、自治体の規模別のモデル事例の一覧を整理することで、自治体の規模に応じて適切な事例を参照できるようにしている。また、国および自治体が一体となって推進しているシステムの標準化・共通化に関する取組と、期待される効果についても説明いただいた。</p>
<p>■デジタル人材の確保・育成</p> <p>デジタル人材の確保・育成に関しては「DX推進リーダー」の育成が重要である。DX推進リーダーのポイントは「コミュニケーション人材」であることであり、ITに関する知識は例えばITパスポートレベルでも、行政実務に理解があり、新しい技術を実務に反映していく発想を持つ人物が、一般行政職員と高度専門人材とをつないで実務を取りまとめていくリーダー人材として相応しいとの説明があった。また、デジタル人材確保に係る国の財政支援について共有いただくとともに、都道府県と市町が連携して人材プール機能などを含む体制構築・拡充に取り組むことが重要とのご意見をいただいた。</p>

兵庫県における地域 DX の現状と課題（兵庫県 DX 推進監 赤澤）

地域 DX の必要性に改めて触れた上で、県のこれまでの取組について振り返った。県では、これまで「デジ田交付金の活用促進」と、「スマートシティモデル事業の推進」に取り組んできた。これらの取組を振り返り、支援体制の構築、人材育成の強化、広域連携の推進といった課題が浮き彫りになった。

令和 6 年度は、これまでの課題と国の動きを踏まえた上で、「市町 DX 支援パッケージ」、「総務省事業を活用した地域 DX 推進体制構築」、「地域 DX モデル横展開支援事業」「ひょうご地域 DX 推進検討会」などの取組を進めていく。

市町 DX 支援パッケージのメニューの 1 つでもある、ひょうご地域 DX 推進検討会の今年度の主な課題は、地域 DX の推進方策とデータ連携基盤共同利用ビジョンの策定。今年度第 1 回となる本日の会議では、市町における困りごとや、県に期待する支援の形、広域で検討すべき課題などについて、ご意見をいただきたい。

総務省施策のご案内（総務省 近畿総合通信局 課長補佐 阪本 様）

地域 DX のうち、特に地域社会 DX に関する施策として以下 3 つをご紹介します。

- ・地域デジタル基盤活用推進事業
- ・地域情報化アドバイザー制度
- ・地域課題解決アシストプラン

加えて、イベント情報として「自治体担当者がつながる場（データ連携基盤をテーマに近畿 2 府 4 県を対象として 8 月 8 日開催予定）」と、「令和 7 年度予算編成を見据えたデジタル関連施策の省庁合同説明会（10 月中旬予定）」についてもご紹介いただいた。

意見交換

（A 市町）

- ・DX 推進に向けたプラットフォーム整備において、自身の取組が無駄にならないよう、県内市町の情報共有、情報開示に県として協力いただきたい。
- ・DX 推進に必要な人材の確保については、総務省からご紹介のあった人材バンクのような形でやっていくべきだろうと思っている。例えば、行政の経験値を持ちながら、行政を卒業された方などが活躍できるような人材バンクがあれば、行政サービスの継続性確保に向けて、外部にしながら活躍していただけるのではないかと思います。その可能性についてお聞きしたい。

（総務省）

- ・人材バンク自体はデジタルに限らない広いお話だと思うが、デジタルに関して言うと、まさに都道府県単位である程度人材を集めてプールするような体制を作っていきたいと思っている。
- ・制度化に向け、先進的に取り組んでいる市町を対象に、どんな背景の人材を、どのように連れてきているのか、任用形態や給与水準はどのようなものか、その人たちはどういう動機で来てくれているのか等を調査中である。今後情報共有していきたい。

(B 市町)

- ・自治体 DX と地域社会 DX を両輪で進めないといけないわけだが、人的リソースも限られる中で、どのように優先順位をつけるべきか。

(総務省)

- ・まさに両輪で進めるのが望ましいところだが、どちらかといえば自治体 DX を先に整える必要があるのではないか。自治体職員の方々がデジタルに関心を持ち、デジタルで課題を解決していくマインドを持たなければ、地域社会にも広がっていかないのではないか。こうした考え方は「自治体 DX 推進計画」の重点取組事項にも記載している。
- ・一方で地域社会 DX も待ったなしの自治体があると思う。これについては、先進的な事例も蓄積されてきているので、それらを参考にしながら、マインドの高まった職員の方が次の一手を考えていくのが、イメージしやすい進め方である。

(C 市町)

- ・サービスの持続可能性をどう担保していくかを考える中で、データ連携基盤に関しては、国と県が連携して基盤の共同利用を進めていく必要があると思っている。各地域でどのような課題があり、どのようなサービスを実装できれば、皆さんに使ってもらえるのかということと合わせて、この点も考えていく必要がある。

(兵庫県)

- ・データ連携基盤の共同利用については、デジタル庁からの話を受けて、本県でも共同利用ビジョンを策定しようと動いている。県ではすでにドラフトを作成して、いろんな人と会話しているところであり、その中で分かってきたこともある。データ連携基盤といっても、健康データ、PHR に関するものや、地域通貨、見守り等、分野によって取り扱うデータがかなり違う。これは、皆さん、実証されてきたご経験で理解されていると思う。つまり、都道府県単位というよりは、分野単位に話を進める方がよいと考えていて、分野ごとに都道府県域を超えて仲間とつながっていく方がうまくいくのではないかと考えている。
- ・本件は、8 月下旬に予定されている都道府県 CIO フォーラムでも議論した結果を踏まえて、今後の検討会でも報告し、皆さまのご意見も聞きながら再び議論させていただきたいと思っている。

(D 市町)

- ・DX は実証、実装だけで終わるのではなく、その先に普及啓発、定着、さらなる深化といったステップもあると思う。こうしたステップの中で生じるランニングコストについても国庫補助を考慮いただきたい。構築後の支援が最初から設定されていれば、より安心して地域 DX に取り組むことができる。市町としては勢いで突破口を開くことはできても、事業の継続性に不安があるため、その後の支援も合わせてご検討いただければありがたい。

(近畿総合通信局)

- ・単年度会計の仕組み上、ランニングコストまでの補助は難しいのが正直なところ。
- ・地域デジタル基盤活用推進事業の補助事業やデジ田交付金などでは、条件次第で事業実施年度にランニングコスト 3 年分をまとめて補助させていただき仕組みもある。どのような補助事業があるかについては、10 月に実施予定の省庁合同説明会で説明があるかと思うので、そ

ちらにも参加してほしい。

(総務省)

- ・ランニングコストという意味では、自治体が継続的にやっていくコストの部分は、普通交付税を使うというのが地方財政の基本的な考え方である。10/10 の補助金などが出てきて、もちろんそれを使ってデジタル化を進めるのは、自治体としては合理的な行動であると思うが、補助金頼みになってしまっている状況もあるのではないかな。
- ・もう少し普通交付税の制度をご理解いただき、財政課ともコミュニケーションをとっていただく中で、普通交付税もあるということで、それを大事に使っていただきたいと思う。

(講演に対する参加者の感想 (一部紹介))

- ・講演内容が大変整理されていて、悩んでいたことに対して、明確に方向性を示していただけたと感じた。
- ・現状、課題等も含めてわかりやすいお話をいただいて大変勉強になった。
- ・我々が地に足をつけて進めてきたことが、間違っていなかったということを再確認することができた。
- ・「みんなが辛くならないように DX を進める」という言葉が特に印象に残った。